

第三次あきる野市 子ども読書活動推進計画 を策定しました

市では、子どもが本に親しみ、豊かな言葉と考える力、やさしい心をはぐくむ読書活動の取組を推進するため、平成30年4月から平成35(2022)年3月までの5年間を計画期間とする第三次あきる野市子ども読書活動推進計画を策定しました。

本計画では、第一次、第二次の計画方針を引き継ぎ、あきる野市のすべての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動に取り組めるような環境整備を行うなど、子ども読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。特に、新設された「あきる野子育てステーションこころの」との連携や、家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的とした読書運動「家読(うちどく)」に取り組んでいきます。なお、本計画の基本目標は次の4つとなります。

「学校(図書館)の 読書環境整備」

学校図書館を一層活用するため、全学校図書館への学校図書館補助員の配置、学校図書館の資料の計画的な購入・更新を継続し、学校図書館の資料管理システムの導入に取り組みます。

「中高生対象の 読書推進事業の継続」

部活動や塾などで多忙になり、読書から離れがちな中高生にも、読書の楽しさが伝わる本や中高生世代にこそ読んで欲しい本のリストを作成し、市内の中学校・高校に配布します。また、「読書アルバム」事業やビブリオバトルなど、読書への興味を高める取組を継続して実施します。



中学生が書いたおすすめ本のポップ
(東部図書館エル・YAコーナー壁)

「乳幼児期からの 読書推進事業の継続」

3〜4か月健康診査時に絵本をプレゼントするブックスタート事業を継続し、家庭での読み聞かせの大切さを積極的に伝えます。そのほか、乳幼児から参加できる「わらべうたのじかん」や「ひよこのおはなし会」、「おはなし会」、「映画会」など

、子どもが本に親しむきっかけとなる各種事業も、多くの方が参加できるよう、事業の開催日時などを工夫し、継続して行います。



「子ども読書推進に関する 啓発と地域の連携・協力」

絵本の読み聞かせや布の絵本、人形劇サークルなど、地域で活動するボランティアの方と連携・協力して、子どもの読書体験を広げていきます。

森井大輝選手 (市民栄誉賞受賞者) パラリンピック4大会 連続銀メダル獲得

あきる野市在住、市民栄誉賞受賞者のパラリンピアン森井大輝選手(トヨタ自動車)が平昌

2018冬季パラリンピックにアルペンスキー(座位)日本代表として出場し、滑降競技で「銀メダル」を獲得しました。森井選手は、2002年のソルトレイクシティ大会から5大会連続の出場、4大会連続の銀メダル獲得という快挙を成し遂げられました。

市では大舞台に向かう森井選手への激励会を2月27日に開催し、澤井市長、子籠議長が激励の言葉を贈り、森井選手からは意気込みを伝えていただきました。式典の中では、森井大輝サポーターズクラブが呼びかけ集めた、300人を超える市民の方からの応援メッセージが書かれた国旗と森井選手の出身校である都立あきる野学園の応援メッセージが書かれた横断幕が手渡されました。

平昌パラリンピックは3月9日に開幕し、森井選手はアルペンスキーの5種目に出場しました。その中で開会式の翌日に行われた男子アルペンスキー「滑降」で見事に銀メダルを獲得、翌日以降の競技に大きな期待が寄せられました。

市では森井選手が出場する全種目でパブリックビューイングを開催し「あきる野市から世界へ! 目指せ金メダル!」の横断幕を掲げ、平昌で戦う森井選手に市民の皆さんの大きな声援

を送りました。大会が終わり、4月16日に報告会を市役所で開催し、森井選手にお話をいただきました。

残念ながら今大会では金メダルを手にすることはできませんでしたが、銀メダルの獲得は、今大会でのアルペンスキー日本人男子選手としては唯一のメダルとなりました。森井選手の胸には誇らしく銀色のメダルが輝き、祝福に來ていただいた多くの皆さんに4年後の北京大会での「悲願の金メダル」への決意を語られました。

今年あきる野夏祭りにおいて、森井選手の祝福パレードを開催いたします。

平昌での感動と今後の活躍を願い、皆さんで森井選手を祝福し、熱いエールを送りましょう!



森井大輝選手